「第１５回　空港内の施設の維持管理等に係る検討委員会」　議事概要
日時：２０２６年１０月８日（金）１５：００～１６：３０

○応急復旧対策の対象となる既設舗装面を基準とした勾配 1%を逸脱する箇所の判定にあたり、鹿児島空港の地盤変形解析の断面③のように片盛土がある場合は、ゆすり込み沈下に加え、せん断変形による沈下も考慮し、三次元的に見ることがよい。

○目標復旧日数に加え、地震発生後から復旧に入るまでのリーディングタイム（被害確認、測量・調査、資機材等手配など）をどの程度想定するかも検討することがよい。

○空港周辺のアスファルトプラントの立地状況に加え、被災時における空港までのアクセス道路が被災時に使用できる状況かを把握するため、被災履歴を調べた方がよい。

○事前対策の地盤改良範囲について、地下道周辺は全深度改良し、側方に向けて改良深度を浅くすることで急激な段差・勾配が発生しない方法があると思われるため、調べるとよい。また、舗装に穴をあけなければならないなど、施工性も確認した方がよい。

○応急復旧日数の算定が直列加算になっているため、現実の施工手順を考慮して復旧日数を検討するとよい。